

日本アンダーライティング協会



湯脇氏

第68回教育講習会をオンライン開催

呼吸器疾患の最新知見テーマに

日本アンダーライティング協会は7月26日、第68回教育講習会をオンラインで開催した。講師に第一生命契約医務部担当医長の湯脇恵一氏を迎え、

「呼吸器疾患の最新知見とアンダーライティング」をテーマに解説した。講習会はオンラインで143人、アーカイブでは68人が視聴した。湯脇氏は、呼吸器疾患の中でも生命保険の加入時に告知されることが多い気管支喘息と慢性閉塞性肺疾患(C

OPD)、併せて個別化医療が進んでいる肺がんについて講演した。同氏は気管支喘息の定義や概念、現状、呼吸機能の影響について説明した上で、特に小児期喘息と成人期喘息の関係性については、小児期喘息の多くは成人しても症状が持続し、寛解するのが難しい疾患との見解を示した。さらに、罹患期間が長くなることは呼吸機能にとって好まし

くなく、将来、COPDでの入院や薬物療法

点で進行していることも多く予後不良の疾患

(文責：チューリッヒ生命 服部百合)

気管支熱形成術（気管支サーモプラasty）

- 気管支鏡下に気管支内腔を65℃に加熱
⇒肥厚した気道平滑筋を減少させ、気道リモデリングを防ぐ
- 治療部位を分けて、3回、それぞれ3週空けて実施
- 重篤な発作や救急外来受診が減少、効果は5年間は持続する
(Castro M. Am J Respir Crit Care Med. 2010;181:116-24.)
- 医療費自己負担分は合計で492,430円（3割負担の場合）

【UWA】第68回教育講習会【オンライン】

呼吸器疾患の最新知見を解説した

のリスクが上がる」と解説した。

次に、肺がんについては近年開発が進む分子標的薬と免疫チェックポイント阻害薬について説明した。肺がんは、診断時は、

「一部の肺がんにおいては、これらの薬剤使用により生存期間の延長が期待できる」との見方を示した。治療選択肢が限られる悪性腫瘍にも新たな治療薬の導入が進むなど、医療行為の進歩は生命保険の必要性の進展にもつながることを示す内容となった。最後に質疑応答も活発に行われた。